

公開シンポジウム

森林の多様性と

大型哺乳類の関係を考える ～気候変動が及ぼす影響の観点から～

ツキノワグマなどの大型哺乳類は、種子の散布による樹木の「移動」に大きな役割を担い、気候が変動したときに樹木が逃げる上で重要な存在であることがわかってきました。そこで、このシンポジウムでは最新の研究成果に基づいて、日本列島における最終氷期以降の主な樹木の分布変遷、ツキノワグマなど主な中・大型哺乳類の分布変遷、来たるべき将来に予想される樹木の分布の変動、そしてそれに及ぼすツキノワグマや鳥類の役割などを概観し、日本の今後の自然の行く末について議論したいと思います。

氷河期以降の気候変動と
人間活動による森林の変遷

高原光(京都府立大学)

遺伝子から推定される第四紀以降の
日本列島ツキノワグマ集団の分布と増減

米澤隆弘(復旦大学)

今後の気候変動にともなう
森林の分布の変化予測

松井哲哉(森林総合研究所)

温暖化が進む中で
哺乳類のタネまきが森林の存続に果たす役割

直江将司(森林総合研究所)

パネルディスカッション

司会・正木隆(森林総合研究所)

参加無料

2017年

2月19日(日)

13:00～17:00

航空会館

501+502会議室
東京都港区新橋1-18-1

JR新橋駅 徒歩5分
東京メトロ銀座線・都営浅草線
新橋駅 徒歩5分
都営三田線内幸町駅 徒歩すぐ



主催/(研)森林総合研究所
後援/日本生態学会
日本森林学会
日本第四紀学会

問い合わせ先/事務局 菊地
(kikusato@affrc.go.jp)
本シンポジウムはJSPS科研費
JP25241026の助成を受けたものです

写真提供:梅村佳寛氏